

《 考 察 》

*令和4年度から4択から5択に変更

◇児童の評価について

20項目中18項目が「そう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定的回答が70%を超える高評価であった。

その中でも、昨年度より数値の上がった項目が3項目あった。

1つ目は、「授業は分かりやすい」84%(+4ポイント)。これは、教職員の評価でも「授業の工夫や準備」100%、「『主体的・対話的で深い学び』の視点に立った授業改善」96%と高評価になっており、教員が授業の工夫に努めていることが功を奏していると考えられる。

2つ目は「困ったときは、相談できる先生や友だちがいる」88%(+14ポイント)。この項目に関しては、昨年度「困ったときは、先生に相談している」という聞き方であったが、今年度は相談相手に「友だち」を加えたためだと考えられる。

3つ目は、「ICT(タブレット)を使うことで、授業がわかりやすくなった」85%(+5ポイント)。今年度、研究テーマとして「児童の主体的な学びを展開させるためのICTを活用した学習指導」を設定し、校内研修に取り組んできた成果であると考えられる。

一方、「あまり思わない」「そう思わない」を合わせた否定的回答の数値が高かった項目は、順に①「学校や家で、よく読書をしている。」35%(+8ポイント)、②「休み時間は、外で元気に遊んでいる」23%(−1ポイント)、③「体調がよくないとき以外は歩いて登下校している」15%(±0ポイント)である。①と③については、家庭と連携を図りながら取り組まなければならない課題である。今後も家庭への協力を呼びかけていきたい。②の否定的回答が多い要因は、上学年になると休み時間に委員会活動等しなければいけないことが増えたり、室内で談笑するなど外遊びよりも優先したいことがあったりするためだと考えられる。本校のめざす児童像の一つ「じょうぶな子」を育成するためにも②、③について改善策を講じていきたい。

◇保護者の評価について

質問項目20に対して肯定的な評価が70%を超えていたのは7項目だった。

特に数値のよかった項目は、「お子さんは、楽しい学校生活を送っている」82%(+2ポイント)、「家庭では、お子さんとよく話をしている」83%(+1ポイント)だった。家庭でお子さんとしてしっかりコミュニケーションを取り、学校での楽しかったことなどを聞いてくださっている保護者が多いことがうかがえる。また、「お子さんは、人を思いやる心や自然を大切にす豊かな心が育っている」も79%(−1ポイント)と高かった。優しく豊かな心をもった子どもに育っていると感じている保護者が多いのは喜ばしい結果である。

一方、否定的評価の数値が高かった項目は、①「お子さんは、家庭でよく読書をしている」50%(+5ポイント)、②「お子さんは、体調が悪いとき以外は歩いて登校してる」27%(+2ポイント)、③「家庭では、インターネット(SNSやスマホ)やゲームなど、使い方やルールを決めている」17%(−3ポイント)である。また、新設の④「学校の教育活動やPTA活動に進んで参加している」も否定的回答が25%あった。①~③は児童の回答とも重なる。これらが改善するように学校と家庭が連携することの重要性を感じる。また、④については、学校教育活動やPTA活動を保護者が進んで参加したいと思ってもらえるようなものにしていくとともに、啓発活動も必要だと考える。

◇教職員の評価について

質問項目20に対して肯定的な評価が70%を超えていたのは19項目だった。

唯一70%を切ったのは、「自らの働き方を意識し、勤務時間の縮減など、その改善に努めている」で、68%だった。ただし、昨年度よりは20%上昇している。依然として多岐にわたる業務がある現状ではあるが、その中でも「授業の工夫や準備(100%)」、「いじめ防止対策(100%)」、「人権教育の推進(100%)」、「問題行動への対応(100%)」等に懸命に取り組みながら、勤務時間縮減に対する意識改革もされつつあると考えられる。今後さらなる働き方改革を推進していく必要がある。

一方、「自主学習の定着」や「読書活動の推進」など、教職員が思っているほど児童には定着していないこともある。児童の現状や保護者の回答結果を真摯に受け止め、改善すべき点について考えていきたい。

アンケート結果全体を通して

学校の教育活動が、児童の高評価の回答に反映されていることは評価でき、教員のモチベーションにもつながっている。一方で、保護者の評価結果は児童や教職員の評価結果ほど高くない。結果を真摯に受け止め、学校として改善すべき点は改善していかなければならない。

これまで、学校ホームページや学校だよりを通して学校の様子を伝えることに努めてきたが、今後一層の情報発信の方法について考えたい。また、近年家庭環境や保護者の価値観が多様化しているが、意見交換を図りながら、家庭や地域と協働して築き上げる学校運営を目指していきたい。